

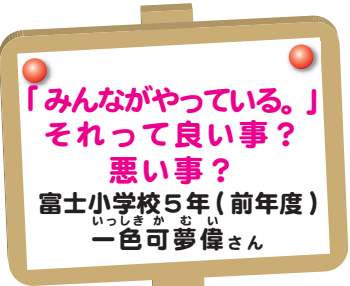
NO.410

人権さんだ



平成24年度
三田市人権ポスター受賞作品

狭間小学校5年(前年度)
テイト美杏さん



平成24年度
三田市人権標語受賞作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。問い合わせ＝まちづくり部人権推進課 (559-5081・5148 FAX563-3611 e メールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

学校でのいじめが問題になっています。見えにくくなったといわれるいじめの背景にある子どもたちの世界を知り、大人として、親としてしなければいけない役割があるのではないのでしょうか。今年一月に開催した『人権を学ぶ啓発講座』に講師としてお招きした原清治さんのお話の内容を紹介いたします。いじめをなくしていくための解決策を一緒に考えていきましょう。

いじめとそれをとりまく大人たちの姿勢

佛教大学教育学部長 原清治さん

いじめをどうするかというところを真剣に考えなければいけない時期に入っています。インターネットや携帯電話での目に見えない、表に出てこない、よりえげつないいじめも起こっていますのでその辺りもお話しさせていただきます。



いじめの標的

現在は昔のように、友だちがいなくて休み時間に一人でポツンと座っているような子をクラスのみんなでいじめたというようなことはほとんど見られません。

一定の人間関係を持つ仲間集団の中にいじめの標的となる子がいるのです。しかし、彼らはこれを『いじめ』とは言わず「いつも一緒にいるから友だちだ!」とごまかします。いつも一緒に教室移動したり、ご飯を食べたり、登下校をしたりとその空間は共有しているのです。だから、先生や親が見た時、いつも一緒にいるグループの中にいるから安心だと思ってしまうのですが、そのグループの中にいじめられる子を一人入れているのです。グループの中にいじめられ安心ではないのです。グループの中にいるから危険なのです。

肩パン

いじめを伺わせるグループがみんな連れ立ってトイレに入ったのです。すると中から「パン!」という音が聞こえてきたのです。肩パンです。このグループの中で一人標的になる子がいるのです。力の強いAが「おい、肩パンやるぞ!」と言ってBの肩を思いっきり叩き、今度は反対にBがAの肩を叩きます。はじめに叩かれたBは、すごい勢いで叩かれているのにAには弱い力でしか叩き返せないのです。弱い力でしか叩き返せない子が他の子たちから代わる代わる肩パンを受けるのです。

ドッチボール

休み時間にドッチボールをするのですが、力の弱い一人の子に向かってみんながボールを投げて狙い、すぐに当てられてしまいます。その子は外から中の子を当てればまた中に入ることができず、外に出て座ってしまいます。自分の役割は終わったという事です。でも実はその子には一つ役割があるのです。力の強い子が投げたボールがキャッチされずに校庭の端っこに転がっていった時がその子の役割です。投げた子が取りに行かずにその子に取りに行かせるのです。みんなで仲良くドッチボールをするために誘うのではなく、友だちのようなふりをして、その子をグループに入れて球拾いをさせるのです。みんなもそれを了解して、本人も了解してグループの中にいます。ものが言えない弱い立場の子に向かって周りの子が「本人が了解しているから良いやないか。」と言います。この構図の中で作られた人間関係を抜くのは非常に難しいです。その状況が携帯電話などに入ってきたら、我々には全然見えなくなってしまう。



便所めし

最近大学生の中に、トイレの中でご飯を食べる学生がいます。それを『便所めし』といいます。授業が終わったり、ご飯を食べようと思った時に、一緒にご飯を食べる友だちがいなくて、食堂に行くと一人で食べると、きつと周りから「かわいそうに。あの子友だちがいなくて。」と見られる。人からの見られ感についてすごく気にします。人の前で自分の醜態を見せたくない、恰好悪い思いをしたくないと感じるので。

いじめの問題は、自分がいじめの標的となった時に、いじめられてつらい思いをしているという事を人に言えないことです。大人は、やられて嫌な思いをしたなら「嫌だと言えよ!」と言いますが、人からの見られ感をもつとすごく気にしますから言えないのです。いじめの側から言いますと、「何をやってる側から言わない!」という子を標的とするのです。ですから、小さいころから嫌なこと作れるかどうかの問題の重要なポイントとなります。



スクールカースト

A B Cの3人の人間関係があると考えるとください。3人いつも一緒にいますが、本当に仲が良いのはAとBで、Cはいわば添え物です。Bがインフルエンザで一週間学校を休んだとすると、Aは10年来の友だちのようにCを扱います。ところがBが戻ってくると、AはCとの関係を切つて、Bとよりを戻します。Cの所に行き、「このグループにいても面白くないだろう。」と聞くと、「いや、このままでいい。」と返ってきます。

Cのような立場の子はどこへ行ってもCです。これがスクールカーストです。このカースト下位の子どもたちの立場は微妙で、いじめの対象になります。しかし、AとBはいじめとは思いません。AとBはCを仲間に入れたままCをいじってやっています。グループの中に一人いじられるキャラを入れておいて、グループの機能をメンテナンスしているのです。

パシリ

昔前なら、いじめっ子がいじめられる子に100円を投げて「ジュース買ってこい。」と言いました。これは使えばしりの『パシリ』です。これはいじめです。今は、ジュースを買ってこいと200円渡します。100円は自分のジュースを買う100円、もう100円はおごつてやるという100円なのです。200円受け取った子は100円でジュースを買ってそのまま戻ってきます。ジュースを渡し100円も返すのです。最初からおごつてやる気はありません。もし、そのプロセスで先生に見つかった時、「ぼくはおごつてもらつて、パシリではない。」と言わざるを得ない状況を作るのです。実に狡猾ないじめの隠れ蓐です。

携帯電話

【LINE(ライン)※】は配信されたメールをAが何日の何時何分に開封したという事が分かります。次にBが読んだ、Cが読んだという跡が残ります。すると子どもたちは何を考えるかというと、みんなが同時に自分のメールを読んだのだから、誰が最初に返信してくるのか、つまりここが子どもたちの距離感なのです。早く返信をしないと、「あいつから疎まれてる。」と思われてしまうのです。だから子どもたちは携帯を離さず持ち歩き、友だちからのメールが届くとすぐに反応するのです。

※【LINE】とは、スマートフォンを中心に通信会社の垣根を越えて無料でメールや電話のやりとりができるソフトで、自分の仲間5人なら5人でグループを作り、全員で会話するようにメールを配信することができます。